

変革の時を迎える沼田高校

群馬県立沼田高等学校
同窓会長

星野本三(高24)



昨年の9月の総会で同窓会長に就任いたしました。同窓会そして母校の発展のために精進して参りたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

今年、十二支の最初の年、「子年」です。「子」は「し」とも読み、「滋」から派生したもので、「万物が滋る芽生えの時」の姿を現しているそうです。急テンポで変化

する世の中、今年の干支の「子」のような身軽さと知恵で乗り切りたいものです。

現在、沼田高校は県教委が進める高校再編計画の中で存亡の危機に直面しております。同窓会は一昨年の総会で「沼高の伝統と文化を継承した形での共学化」を決議いたしました。正に棘の道の選択であります。本校の特色を生かしながら、新し

い校風づくりに邁進するためには、同窓会が一丸となって母校の発展に尽力しなければならないと思

います。今後とも在京同窓会の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

数多の縁に感謝を込めて

群馬県立沼田高等学校
校長

丸山正



在京同窓会会員の皆様には、平素より本校の教育活動に対し、ご支援・ご協力を賜り、誠に有難うございます。昨年6月には四谷で開催されました総会に本校職員をお招きいただき、また11月には掛川西高校の冀北会同窓会への参加を手配していただき、誠に有り難うございました。ほぼ同じと言ってよいメロ

ディ、類似点を多く持つ歌詞の校歌を持つ両校の歴史的な縁の深さには驚くばかりで、大変感銘を受けました。今後とも両校の親睦を深めていく上で大きな一歩となる企画であったと心より感謝申し上げます。

現在、生徒は沼高の伝統を引き継ぎ文武に精進する日々を続けております。昨

年はフェンシングで全国制覇も成し遂げました。今後も至る所で活躍する先輩方に恥じぬ、有為な人材を多く育てていく所存ですので、今後ともご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

在京同窓会

沼女在京同窓会

会長 小峰好恵(沼女19)



「五常の鐘」第40号発行おめでとうございます。

今年、合同総会の年です。案内を2,300通程発送予定ですが、住所不明、死亡、辞退者で前回より100通以上減りました。

90周年記念事業で作成した名簿では、はや対処できなくなりました。この会は先輩の気の遠くなる様な努力で誕生した手

作りの温かい会です。この温もりが決して消えることのない様に若い世代がITを駆使してますますこの会を発展させてくれることを大いに期待します。本校は今年100周年を迎えました。高校時代あれ程憧れた男女共学が少数化という時代の流れで否応無しに実現しようとしています。在京同窓会はこれからも仲良く楽しく両校それぞ

れの先輩の意志が引き継がれて行くことでしょう。総会は愛郷沼田の地に思いを馳せ合い一瞬に甘酸っぱいあの頃にタイムスリップできるそんな会です。一人でも多くの方に出席頂き楽しい時を共に過ごしましょう。

〔第1面中段からつづく〕

掛川の地で咲いた桔梗を百年前に沼田へ株分けした教師がいたということではないだろうか。(なお掛川西高校歌の「基」は「ドレ〜ミ」であるが、沼高校歌は「レ〜レミ」である)沼高校歌と掛川西高校校歌の遭遇の近年の経緯は、次の通りである。(〈掛川西高校校歌〉1906年7月15日掛川中学校(旧制)『校友会誌』創刊号に現在と殆ど同じ掛川西高校校歌が掲載される。

〈沼高校歌〉1923年沼田中学校(旧制)の校歌が(実質)制定される。

1960年頃；中井龍三さん(掛川西高4回)、義兄の西田治司さん(沼高2回。元沼田市長)が歌う沼高校歌を聞いて驚く。

1964年8月9日；夏の甲子園の開幕試合で、掛川西V S 八代東の試合があり、18回延長引き分けとなったが、翌10日の再試合で掛川西が勝利し、沼高から掛川西に問い合わせあり。

1975年3月30日&4月2日；春の甲子園大会で掛川西が2勝してベスト8とな

り、沼高から掛川西に問い合わせあり。1980年頃；八木訓(おしえ)さん(掛川西高7回)が職場の宴会で校歌を歌ったところ、隣にいた大塩卓義(たかみち)(沼高4回)さんが「それはオレの高校の校歌だ！」と驚く。

2010年4月24日；上毛新聞に「両校歌の酷似」「中井龍三さんの回想」「岩崎莞爾教諭の関与」の記事が出る。(この記事は、「120周年記念誌」にコラムで紹介される。)

2012年10月18日；沼高在京同窓会の橋場会長(当時)が掛川西高を訪問し、弓道部の顧問の先生から掛川西高校歌のCDを受け取る。

2017年8月23日；沼高の林校長先生(当時)が掛川西高を訪問し、応援団指導部および吹奏楽部から掛川西高校歌の答礼を受ける。

2019年11月16日；東京冀北会(掛川西高校関東地区同窓会)総会に、沼高丸山校長・林(前)校長・星野同窓会長・金子在京同窓会長・橋場(前)在京同窓会長が出席

し、東京冀北会員約100名及び掛川西高の桜井校長・石川同窓会長らと共に両校の校歌を斉唱。

2. わが沼田高校在京同窓会について

沼高在京同窓会は、明治30年〜昭和4年の約33年間、沼田中学一筋に奉職され、のち東京にお暮しであった飯田万吉先生の警咳(けいがい)に接したいとの沼中OBの希望を受け、昭和6年2月に開催された「飯田先生御招待在京卒業生の集い」が契機となり、同年5月に第1回在京同窓懇親会が開催され、以後連続と続いている。飯田万吉先生は、冀北学舎(掛川西高校の前身で、私塾)を卒業した山崎覚次郎らと同時期に本郷の春廬屋に寄宿して坪内逍遙の指導を受けた(恐らく)旧横須賀藩士(横須賀藩は掛川市にある。)であり、これも不思議な縁と言えよう。

(「沼高七十年史」、「三谷充弘氏(掛川西高 高26)資料」を参照させて頂いた。)

金子高志(高19)